

2014(平成 26)年度 海外留学体験報告書
仁荷大学(韓国)

文芸学部 文学科

1. 留学中の活動詳細について

韓国に行く前から、イナ大学の国際交流センターやトウミ(留学生サポート制度)と連絡をとることができたので、心配ごとなどがあればすぐに聞くことが出来ていました。

韓国に到着した当日は、まだ入寮日ではなかったので、近畿大学から一緒にきた先輩と、明洞で一泊し、次の日にイナ大学の最寄り駅まで移動しました。最寄り駅で、トウミの友達と合流し、イナ大学の寮まで行きました。イナ大学の学生寮は、学校の外にある第1寮と、学校の敷地内にある第2寮に分かれています。私のいた、第2寮はエントランスを真ん中に、女子寮と男子寮が分かれています。寮に入る際には入り口で指紋認証が必要なので、寮についてすぐに指紋登録をしました。部屋は4人1部屋と2人1部屋があり、私は4人部屋でした。1学期のルームメートは全員日本人で、夏からは私を含めた3人が日本人、残りの1人が中国人でした。

部屋には、各自の机、ベッド(机の上にベッド)や椅子、タンスや、ルームメートと共同のタンスなどがありました。部屋の外に階ごとの共同で、トイレ、シャワー室、洗面台、キッチン、冷蔵庫などがあります。シャワー室は、横にちょっとした仕切りしかないので、初めはなかなか慣れませんでしたし、1フロアに約40人が住んでいるのに対しシャワーが3つしかないので、夜9時から12時までは、大混雑していました。

布団、枕、電気スタンド、食器、食料などの生活用品は、寮から歩いて15分のところにある、大型スーパー(Homeplus)や、こじんまりしたスーパーで買ったりしていました。

また、寮の1階には、コインランドリー、ジム、コンビニなどがあり、地下1階には食堂があります。平日の朝食と夕食は、食堂で出るので、作ったり、食べに行ったりということがないのでとても楽でした。ただ時間が決まっているので、朝早く起きるのが嫌で、食べなかったことも多々ありました。寮のご飯は、私にはとてもおいしく感じました。ただ、おかずがすべて真っ赤な(辛い)時もあるので、辛いのがあまり好きではなかった私にはつらい時もありましたが、1か月過ぎたころからは慣れて、とてもおいしく食べていました。1階のコインランドリーは、洗濯機、乾燥機それぞれ1回につき1000WONがかかります。しかし、寮に1500人近くいるのに対して、8個ずつぐらいしかないので、よく行列が出来ていました。

また、毎日夜の12時に部屋の点検があります。部屋にちゃんといるかどうか、部屋はきれいかなどの点検です。点検の間は、必ず部屋にいななければいけません。トイレ、シャワー室などの寮内にいても、部屋にいなれば1減点という罰則があり、学期につき累積3点になると即強制退寮処分になります。交換留学生だから大丈夫という例外はないようで、友達も何人かは寮に住めなくなっていました。ただ、外泊申請はインターネットで簡単に行うことが出来るので、ぎりぎり不安なときなども申請していました。例外で、テスト1週間前から、テスト最終日まで

は門限が 2 時までになる上、点検はありません。寮は守らなくてはいけない規則が多いので大変でしたが、点呼をしてくれる助教と仲良くなったおかげで、いろんな情報を教えてもらい、楽しい寮生活を送ることが出来ました。例えば、寮では2か月に1度、寮のサイトにルームメイトとの仲の良い写真などを上げるだけで、無料でピザやチキンなどの夜食がもらえたり、オープンハウスといって、普段は寮生しか入れない寮に外部の人も入れるイベントが半年に1回あるのですが、ほとんどの人がそれを知らなかったり、参加しないことが多いので、参加すれば90パーセントの確率で、景品がもらえました。前期のオープンハウスでは、参加してゲームなどをして、景品(チキンやピザ、中華料理のデリバリー無料券や、大型スーパーで使える5万 WON 券など)を頂きました。後期のオープンハウスでは、仲良くなった助教たちに誘われ、オープンハウスのボランティアとして参加しました。私以外のボランティアの人は、全員韓国人で、最初は戸惑いも多かったですが、良い経験になったうえ、寮で知り合いがたくさん増え、とても楽しかったです。

外国人登録証や、学生証、銀行口座の作り方などは、全てイナ大学の国際交流センターの方と、交換留学生を助けてくれる ISL というグループの学生が手伝って下さるので、戸惑うことなく、簡単に手続きが出来ました。外国人登録証を受け取りに行く際も、国際交流センターからバスの手配があるので、とても楽でした。

<勉強面>

韓国の大学は、3月から6月中旬までが前期、9月から12月中旬までが後期です。イナ大学には、語学のみを勉強する語学堂もありますが、語学堂は別で1学期25万円追加しないといけなかったので通わず、大学で前期6個、後期6個の授業を受けていました。韓国の授業申請は日本と全く異なっています。1か月前に、授業申請期間があり、その期間にのみ申請が出来ます。ただ、授業には人数制限があるため、早いもの勝ちです。申請日は、朝8時半から戦いのようです。学校のコンピューターは、一番早くつながるので、朝早くから席取りをする人もいれば、学校から離れたところにあるPCカフェに行ったりする人もいます。私は、1学期の時は、そのことを何も知らなく、ほとんどの授業を申請できませんでした。しかし、申請できなくても、初日の授業に行くと、教授が追加してくれる場合があり、私はその方法で、受講したい授業を聞いていました。後期は、前期の失敗を繰り返さないように、朝早くから準備をしたおかげで、希望する授業に申請できました。

私は、イナ大学で韓国語文学を専攻としていましたが、交換留学生は学部学科に関係なく、好きな授業を聞けるので、専攻の授業のみならず、他学科の授業を聞いたり、また教養科目の中にある外国人留学生専用の授業などを聞いたりしていました。授業は、思っていたよりも本当に大変でした。前期の初めのころは、教授の話すスピードや、量についていけず、理解することがとてもしんどかったです。特に専攻の授業は、本当に苦痛でした。しかし、その授業で知り合って韓国人の友達2人が、授業の次の日に、スタディーといって勉強会を毎週してくれたおかげで、授業の内容を理解出来ていました。

また、授業では、発表やレポートがたくさんあったり、現地調査などもあったりしました。発表では、普段使うような日常的な韓国語とは違って、発音に気を付けないといけないことが多くあり、苦労しました。しかし、友達や、同じチームのお兄さんやお姉さんたちに助けてもらい、無事に終わることが出来ました。教養科目の「地理と旅行」という授業では、他学部の人と交流でき、またチームで韓国の地方に出向き、その地域の地理的特徴が、文化や歴史にどのような影響を及ぼしているのかなどについて調べるといって現地調査がありました。私のチームは、韓国の中西部に位置する群山(グンサン)という場所に行ってきました。そこは、日本統治時代に日韓をつないだ重要な場所で、今でも日本式の建物や文化がたくさん残っているところです。最初、チームの人たちが群山に行こうといった際、なぜそんなところに行くのかと、疑問に思っていました。行ってみてよかったです。なぜなら、韓国語を専攻しているのに、韓国と日本の歴史、関係をほとんど知らずにいたからです。これをきっかけに、日韓の歴史について少しずつですが、勉強しています。

<経費面>

学期中は月に30万₩~40万₩(3万円~4万円)くらい使っていました。休み中は、50~60万₩くらいを使っていたと思います。お昼ご飯代のみの支出で朝晩を寮での食事にすれば、もう少し経費を抑えられたのかもしれませんが、外食をしたり、韓国はデリバリーできるお店が多いので、デリバリーの注文をしたりしていたので、そのぐらいの費用がかかりました。

寮費は、前期分、夏休み分、後期分、冬休み分と、年4回に分けて支払います。休み期間は、長期、短期と2種類あり、それぞれ料金が異なります。学期中の寮費は、朝晩の食費が含まれていて、4か月で10万円程度でした。休み中も、食費込、2か月で5万円程度でした。また4人室と2人室、第1寮と第2寮で料金が異なります。ただ来年度からは、食券を自分で買うというシステムに変わるため、寮費がとても安くなるそうです。

連絡を取るために重要な携帯電話は、初めの1か月間は Wi-Fi を7万₩で利用し、4月からはプリペイドの携帯電話を使っていました。プリペイド携帯は、先にお金を振り込み、その分だけ使えます。振り込んだ金額分を使ってしまえば、またチャージをして使えるものです。日本で使っていた私の携帯はiphone5で、SIM カードを抜くことが出来なかったため、8万₩で古いスマートフォンを買って使っていましたが、かなり使いにくくて、夏休み中に29万₩で新しいスマートフォンを買いました。携帯の基本料金は、1日150₩(15円)で、1分間の通話で約200₩をひかれました。また、3G は500MG で11000₩、1GB で16500₩でした。またプリペイド携帯電話を契約する会社によって異なりますが、それぞれ契約した会社の Wi-Fi がよく飛んでいる上、寮にも Wi-Fi があるので、1GB もあれば十分でした。

2. 留学の成果について

留学に行く前と比べて、一番成長した点は、話すことと聞き取ることだと思います。渡韓前までは、文法や書くことを主に勉強していたので、言いたいことや聞きたいことがあっても、いったん

頭の中で日→韓、韓→日というように翻訳し、文章を作り整理してから、話したり聞いたりしていました。約1年間の留学を終えた今、韓国語漬けの日々を過ごしたおかげで、頭の中で整理しなくても、日常会話や、討論の際に自分の言いたいことをスラスラ言えるようになり、相手の言っていることもスラスラと耳の中に入ってきます。発音の点では、まだまだ足りない点も多いですが、話さなければ生活できないので、失敗という恐怖感はありませんでしたが、積極的に話したおかげで、留学当初からの知り合いには、理解力も発音もよくなったと言ってくれるようになりました。

その他、イナ大学を選択して本当によかったと思います。イナ大学には、交換留学生がたくさん勉強していますが、日本人は私を含めて6人でした。異国の地で生活する上で、母国語を話せる友人がたくさんいた方が安心ですが、一方では、普段の会話も日本語になってしまいがちになると思います。そういった意味でも、できるだけ日本人が少ない大学が良いと思い、私はイナ大学を選びました。そして、この事は、現在、日本人や韓国人のみならず、アジア各国やヨーロッパから学びに来ている留学生とも仲良くすることができ、またそのおかげで物事を考える幅が広がったように感じています。

3. 反省点について

韓国に留学に行きましたが、英語の勉強をしておけばよかったなと感じることが多かったです。私は、英語が苦手で、今までも英語は避けてきました。しかし、交換留学生の7割は韓国語を話せないで、交換留学生同士の集まりに行っても、全てが英語です。また夏休みから、ルームメイトだった中国人も韓国語は全く出来ないため、英語で会話するしかなかったのですが、会話が成り立たないということも多く、ルームメイトにはとても申し訳なかったです。韓国に行く前までは、英語が出来ないということで後悔するなんて思ってもいませんでした。これからでも、英語の習得に力をいれようと思うようになりました。

大きな反省点はこのぐらいで、他はほとんどありません。毎月、国際交流室に提出する学習報告書のおかげで、反省点を見つけ、それを改善するように心がけていました。

4. 海外留学を目指している学生へのアドバイスについて

少しでも留学してみたいという気持ちがあるならば、絶対に挑戦してみるべきです。ちょっとでも気持ちがあるのに行かなければ、後悔すると思います。

また、学校の授業とは別に、TOPIK やハングル能力試験などを受けてみることも良いかと思います。

留学に少しでも興味のある方は、近畿大学のホームページを見たり、国際交流室に行ってみたり、留学経験者の話を聞いてみたりすることが良いと思います。